

平成 22年 4月10日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520272

研究課題名（和文） 16・17世紀における地中海地図とシェイクスピア演劇

研究課題名（英文） The Mediterranean Map and Shakespeare in the 16th and 17th Century.

研究代表者 勝山 貴之

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：19520272

研究代表者の専門分野：西洋文学（英国近代初期演劇、シェイクスピア）

科研費の分科・細目：文学、ヨーロッパ語系文学

キーワード：シェイクスピア：近代初期英国演劇：地図：地中海：他者：異文化衝突：イスラム

1. 研究計画の概要

科研費助成研究「16・17世紀イングランドにおける地図製作とシェイクスピア演劇」（平成15年～18年）における研究を進めていくなかで、イングランド人が地中海貿易を通して経験した異国人との遭遇によって、いかに自己成形（Self-fashioning）を果たしたかの問題が非常に重要であることに気付かされた。ムーア人、モロッコ人、トルコ人、スペイン人、ユダヤ人等、他者との遭遇・接触が、イングランド人という国民のアイデンティティ形成にいかに大きな役割を果たしたかは、是非とも研究し解明すべき問題であると思われる。その際、英国地図同様、人々が見知らぬ土地を思い描くにあたって重要な文化表象であった地中海地方の「地図」が、シェイクスピア演劇を考察するうえで、とても興味深い対象となるものであるということには強い確信を抱いている。今回の科研申請は、平成15年～18年度において遂行してきた「地図」の研究を、英国のみならず地中海地域へと拡大するものであり、現在、出版準備を進めている書物『英国地図製作とシェイクスピア演劇』の姉妹編となる書物『地中海地図とシェイクスピア演劇（仮題）』を執筆するための研究基盤となるものである。

2. 研究の進捗状況

平成19年度から国内外において資料収集を進め、地中海世界の研究を遂行するなかで、イスラム世界との接触がキリスト教世界に大きな影響力を持っていたことがわかってきた。イスラム世界、特にモロッコとイングランド

の関係を歴史的に跡付け、そうした側面からシェイクスピア作品『ヴェニスの商人』の分析し、第47回日本シェイクスピア学会で研究発表をおこなった。学会参加者との意見交換を通して様々な示唆を受けることができたので、加筆し論文として発表した。続いて、地中海世界においてイスラム圏に取り囲まれた島であるキプロス島の軍事的・文化的意味に注目し、悲劇『オセロ』の分析にあたった。国内の資料はインターライブラリー・サーヴィスを利用し収集にあたり、国内で入手困難な資料については、米国ハーヴァード大学図書館、コロンビア大学図書館、カリフォルニア大学バークレイ校図書館を利用して資料収集を行うことができた。収集した資料を基に、関西シェイクスピア研究会2月例会で研究発表を行い、会員との意見交換を参考に加筆し論文の形としてまとめて、6月に学会誌に投稿予定である。平成22年10月に開催される日本シェイクスピア学会第49回大会において、セミナー「シェイクスピアとイスラム世界」のリーダーを務めることが決まっており、現在、セミナー・メンバーと発表準備を進めている。

3. 現在までの達成度

科研費申請の際に予定していた計画のほぼ70%が完成しつつあり、最終年に向けて、研究の総括に取り掛かろうとしている。

4. 今後の研究の推進方策

科研助成の最終年にあたる本年は、日本シェイクスピア学会におけるセミナーを中心に

準備を進め、その成果を論文として発表した。そして発表した論文を、更なる研究への基礎固めとして位置づけて、数年のうちにイスラム世界とシェイクスピア演劇の関係についての研究をまとめていくつもりである。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①勝山貴之 「イングランド地図の成立と歴史劇—『ウッドストック』、『リチャード二世』、『ヘンリー四世』二部作」『同志社大学英語英文学研究』第83号 pp.1-37. 平成20年10月

②勝山貴之 「地の果てからの来訪者と『ヴェニス商人』」『同志社大学英語英文学研究』第84号 pp.23-55. 平成21年3月

[学会発表] (計3件)

①勝山貴之 「イングランド地図の成立と歴史劇」第46回シェイクスピア学会 セミナー「歴史劇の面白さ」平成19年10月 於：早稲田大学 (東京都)

②勝山貴之 「地の果てからの来訪者と『ヴェニス商人』」第47回シェイクスピア学会 平成20年10月 於：岩手県立大学 (岩手県岩手郡)

③勝山貴之 「『オセロ』とイスラム世界」関西シェイクスピア研究会2月例会 平成22年2月21日 於：同志社大学 (京都市)

[その他] 関連した研究として、御茶ノ水女子大学・清水徹郎氏(研究代表者)を中心として進めてきた基盤研究(B)「イギリス初期近代における宗教と演劇文化の歴史的研究」に関する研究成果は下記のとおりである。

(1) 学会誌等

①勝山貴之 「Robert Parsons の *A Conference about the Next Succession to the Crown of England*—1590年代のイングランドにおいて弾圧の対象とな

った書物にみる政治と宗教」『同志社大学英語英文学研究』第81・82合併号 25-49 平成20年3月

②勝山貴之 「カトリック穏健派と詩的想像カーサウスウェルとコンスタブルをめぐって」『主流』第70号 pp.1-17 平成20年11月

③勝山貴之 「カトリック穏健派とプロテスタント遵法者—アンソニー・マンデイと『サー・トマス・モア』」『主流』第71号1-20 平成21年11月

(2) 口頭発表

①勝山貴之 「Catholic Loyalism and Poetic Imagination: Henry Constable と Anthony Munday をめぐって」宗教とエリザベス朝演劇研究会 平成20年1月13日 於：お茶の水女子大学 (東京都)